令和6年 第4回（9月） 筑紫野市議会定例会
【文教福祉常任委員会 委員長報告】

認定第4号及び認定第5号の2件について、審査の経過と結果をご報告いたします。

まず、『認定第4号 令和5年度筑紫野市奨学資金貸与事業特別会計歳入歳出決算の認定』の件について、ご報告いたします。

執行部からは、歳入歳出決算書、及び関係資料に基づく説明を受けました。

委員会では、返済に困っている方の兆候を見分けるために、どのような目安で対応するのかとの質疑があり、執行部からは、納付がされなかった場合に、本人と連絡を取り、現在の状況を確認し、納付の猶予や分納の対応を行っているとの答弁がありました。また、一委員から、生活が厳しい方に対して返済計画を一緒に考えたりするのかとの質疑があり、執行部からは、個々の状況に応じて返済計画を立てながら納付していただくようにし

ているとの答弁がありました。

討論はなく、採決の結果、全員一致をもって原案のとおり認定すべきものと決しました。

次に、『認定第5号 令和5年度筑紫野市介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定』の件について、ご報告いたします。

執行部からは、歳入歳出決算書、及び関係資料に基づく説明を受けました。

委員会では、認定調査費における主治医意見書の費用はどういったものかとの質疑があり、執行部からは、介護保険申請時の介護認定の場合に必要な主治医意見書の作成料であるとの答弁がありました。また、一委員から、本市の要介護認定率が国、県に比べて低い主な要因は何かとの質疑があり、執行部からは、国や県に比べて高齢化率が低いことに併せ、介護予防などの取り組みの成果であるとの答弁がありました。

討論はなく、採決の結果、全員一致をもって原案のと
おり認定すべきものと決しました。

以上、報告を終わります。

令和6年第4回(9月)筑紫野市議会定例会
【文教福祉常任委員会 委員長報告】

『議案第46号 財産(物品)の取得』の件について、ご報告いたします。

本件は、学校給食共同調理場において現在使用している食器洗浄機の老朽化に伴い更新を行うものです。

委員会では、以前の入替え時よりも金額が高いと思うが、物価高騰等の諸条件によってこの金額になったのかとの質疑があり、執行部からは、この製品は受注生産であり、人件費やステンレス部材の高騰が考えられるとの答弁がありました。また、一委員から、納入期限が令和7年3月末となっているが、給食づくりへの影響はないのかとの質疑があり、執行部からは、学校の春休み期間を利用して機器の入替えを予定しているため影響はないとの答弁があ

りました。

討論はなく、採決の結果、全員一致をもって
原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、報告を終わります。

令和6年 第4回（9月） 筑紫野市議会定例会
【文教福祉常任委員会 委員長報告】

議案第50号及び議案第51号の2件について、審査の経過と結果をご報告いたします。

まず、『議案第50号 令和6年度筑紫野市奨学資金貸与事業特別会計補正予算(第1号)』の件について、ご報告いたします。

本件の主な内容は、令和5年度筑紫野市奨学資金貸与事業特別会計歳入歳出決算を踏まえ、令和6年度歳入予算のうち前年度繰越金を227万5千円を増額し、併せて、一般会計繰入金を187万5千円、貸付金元利収入を40万円減額するものです。

質疑、討論はなく、採決の結果、全員一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、『議案第51号 令和6年度筑紫野市介護保険事業特別会計補正予算(第1号)』の件について、ご報告

いたします。

本件の主な内容は、歳出については、国からの交付金精算に国庫支出金返還金 8 6 1 万 1 千円の増額などで、歳入については、国からの交付金精算に伴う追加交付金 8 2 9 万 3 千円の増額などをするもので、歳入歳出予算の総額を 7 7 億 1 0 3 0 万 3 千円とするものです。

質疑、討論はなく、採決の結果、全員一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、報告を終わります。

令和6年第4回(9月)筑紫野市議会定例会
【文教福祉常任委員会 委員長報告】

『請願第1号 高齢難聴者の補聴器購入への助成を求める請願』の件について、審査の経過と結果をご報告いたします。

本件は、去る6月定例会に提出され、継続審査となっていたものです。

委員会では、本請願の要旨を確認した上で、意見交換を行いました。

補聴器購入に係る筑紫野市独自の補助、支援事業の実施については、市において、潜在的な中等、軽度の高齢難聴者の把握の必要があるが、容易ではなく課題が多いとの意見が出されました。一方、公的助成制度の創設について国に意見書を提出することについては、事業実施に係る議論を踏まえ、この事案は国が一律に支援策を講じるべきであり、国に対しての意見書提

出については採択すべきとの意見が出されました。

討論はなく、採決の結果、全員一致をもって国に対する意見書提出に係る部分を採択すべきものと決しました。

以上、報告を終わります。